



「夏到来！海に出よう！」

■海は地球のたからもの

夏真っ盛り！海遊びのシーズン到来ですね。

磯の生き物と遊んだり、波に磨かれた貝殻や石を拾ったり、海は遊びと学びの宝庫。全世界と、そして生命誕生の地である深海ともつながっている海は、蒲郡だけでなく地球の宝物です。

■地球の色変化と生物進化

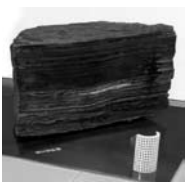
宇宙から見た地球の写真は静ひつで、見つめていると、まるで地球がはるか昔から青い宝石だったかのように思えてきます。でも実際には、46億年前の地球は赤く光るマグマの惑星でしたし、およそ40億年前、海を作った豪雨が続いたときには、一面白い雲に覆われていたでしょう。地球に

海ができてからも、その色は折々に変化しました。およそ25億年前には浅海を中心に、世界各地に赤い海が広がっていたと考えられています。当時、浅い海に進出したばかりの単細胞生物たちが光合成を行い、その副産物として造り出された酸素が、海に溶けていた鉄をさびさせたのです。水の中に鉄くぎを放置しておくと、赤茶色い鉄さびがくぎの表面や水中にわいてきますが、あれと同じです。鉄は水に溶けますが、酸素と結び付いた鉄さびは溶けていることができず、赤茶色い粒になって沈むのです。

実は、こうして沈殿した鉄さびが岩石となつて世界各地に残っています。これらの岩石は、はるか昔、生物が地球環境を大きく変化させたことの証拠なのです。

■青のはかなさ、美しさ

海の色は、地球環境の変化によって刻々と変わってきました。そのことを思うと、目の前に広がる海の青が一層美しさを増すように思えてきませんか？海遊びのあとにはぜひ、海の青さを振り返ってみてくださいね。



生命の海科学館に展
示されている、約25
億年前に海底に鉄さ
びの鉄鉱石（縞状鉄
鉱層）。



今の時期は、市域のあちこちの神社などで夏祭りが行われ、手筒花火や打ち上げ花火を楽しむことができますが、とりわけ迫力があり、見る人を魅了するのは、7月最終土・日曜日に行われる「蒲郡まつり」で打ち上げられる3発の正三尺玉花火でしょう。火薬を詰めた玉の大きさが3尺（約90cm）のこの花火が打ち上げられて空に広がった時の直径は約650mで、周囲約600mの竹島のおよそ3倍にあたります。

蒲郡まつりが始まったのは、今から28年前の昭和58年（1983）です。市民の手づくりによる市民総参加のまつりを、とさまざまな行事が計画されました。市民会館では、今も行われているカラオケ大会をはじめ、市吹奏楽、ジャズダンスなどの催しや物産展、

夏の風物詩・蒲郡まつりの正三尺玉花火はいつから？

ちよつと面白いものとしては、大天才クイズ、ギネスに挑戦・自転車遅乗り競争、うなぎつかみ取り競争などがありました。中央通りでは、「ミス蒲郡」らを乗せたアドカー（飾り付けられた車）によるパレード、市内のスポーツ少年団や鼓笛隊が参加した少年少女市中パレード、チャラボコ太鼓の演奏、仮装コンクールも催されました。

初年度の花火のメインはスターメインでしたが、昭和60年から初めて正三尺玉1発が加わりました。翌年からは2発に増やされ、現在のように3発の正三尺玉を打ち上げるようになったのは平成5年（1993）からです。

海上の台船から打ち上げられる正三尺玉花火は、およそ1km離れた蒲郡駅前付近でも、玉が開く「ドーン」という響きを十分に体感できます。近くで音を味わうもよし、遠くから全体を眺めるもよし、ぜひ自分だけの観賞スポットを見つけてお楽しみください。



正三尺玉花火